



## 女性会員全員の会活動をめざす！ ～センターで自分らしい人生100年を～ 平成30年度活動スタート

平成30年5月21日、今年度第1回目の女性会員活動活性化委員会（以下略称として女性委員会）を開催し、昨年の設立30周年大会のキーワード、「変革」を基に、女性委員会も新たなスタートをすることになりました。

### 入会された女性会員は「女性会員の会」の一員です

これまで主に班活動を核に女性会員活動活性化委員会として活動してきた会の名称を、改めて「女性会員の会」とし、当センターに入会された女性会員の方すべてを対象に、活動を推進する方向を再確認しました。もともと入会と同時に女性会員は「女性会員の会」の一員として位置付けられていましたが、活動の運営主体となる班活動を中心とした「女性委員会」に矮小して理解されてきた経緯があります。

平成30年度からは、女性会員であればどなたも「女性会員の会」の一員として、これまでの班活動や女性会員の会の主催するグループ活動、イベントや物販等の催しに参加していただくことになりました。

班活動は今後も「生きがい就労」を目的とした活動推進委員会の構成メンバーとして女性会員の会の運営に参画していただきます。本推進委員会は5つの班の班長・副班長に加え、外部委員2名と担当理事で構成され、平成30年度の事業計画を進めることとなります。

### 人生100年時代の生き方モデルをめざします

センター会員の平均年齢が年々高くなるなかで、「生きがい就労」と「健康」の相関は様々な事象で指摘されています。「困っている人のために」「助けを必要としている人のために」「地域のために」「子どもたちのために」といった「利他」の活動が「生きがい」に通じ、結果的に個人の「生きがい」を生み、固定的な制度と制度をつなぐ「社会の潤滑剤」となっている現実があります。要は、「貴重な労働人財」と「地域社会を支える貴重な人財」の両者を有するセンターこそが人生100年時代の生き方モデルを示し得る一つの「場」だとも言えます。

本年度は、女性会員の「生きがい就労」の掘り起こしと実践を進め、会員の満足度向上に取り組むことを第1回会議で確認し、具体案の検討に取りかかっているところです。

### 女性会員の会活動状況

(2018.4以降)



#### ▲5月22日生活サポート班調理実習

- 4月2日 文化伝承班 堀之内公園で花見・例会
- 4月2日 オフィスワーク班 花見・例会
- 4月9日 パソコン班 媛パソコン教室開催
- 4月20日 生活サポート班 例会
- 4月23日 パソコン班 媛パソコン教室開催
- 4月24日 福祉サービス班 例会
- 4月毎週木曜日 パソコン班 湯山パソコン教室開催
- 5月21日 女性委員会開催
- 5月22日 生活サポート班 調理実習
- 6月2日 松山まつり踊り練習開始 6月水・土、7月水、直前練習3回実施予定
- 6月13日 総会 会場にて生活サポート班、暮らしのものづくりプロジェクト物販



◀文化伝承班  
手作り作品・パン販売

くらのプロジェクト  
手作り品販売 ▶



これまで他人事のように思われていた方も多く  
 思います。会員の皆さんの積極的な活動へのコミッ  
 トを期待したいところです。

第1回委員会で確認した事項について報告します。

### 平成30年度女性会員の会活動方針

- ・センター第5次中長期活動計画に則り、女性委員  
 会を女性会員全員の会とし、班活動を「生きがい  
 就業」を目的とする活動と位置付ける。
- ・センター活動の意義の理解を前提として、会員が  
 主体的に活動の実践と普及につとめる。

### 平成30年度女性会員の会事業計画

月	女性会員の会	福祉サービス班	文化伝承班	生活サポート班	オフィスワーク班	パソコン班
4		例会	花見・例会	例会	花見・例会	
5	第1回 女性会員の会委員会			調理実習		
6	総会	松山まつり	野球拳踊り練習	(6月毎週水・土 7月毎週水 直前練習 7/30・8/2・8/6 当日 8/10)		
7		松山まつり	野球拳 踊り練習			
8	第2回 女性会員の会委員会	松山祭り野球拳踊り参加				
9	(仮)SC 講座	ティーセミナー	調理実習		「お話を聞こう」	奇数月 ミーティング  ・湯山パソコン 教室  ・媛パソコン 教室
10	健康フェスタ		クラフト・かご	男の料理教室	年金勉強会	
11	(仮)SC フェスティバル	しまなみウォーク	松山城散策	「お話を聞こう」		
12	一斉清掃					
2019. 1		新年会	新年会	新年会 調理実習		
2			フェルト小物		例会・お茶会	
3	第3回 女性会員の会委員会	お花見	ボトルフラワー	親睦会		

女性会員の会では、他団体との交流、物販の販売等を目的に、【10月 松山市主催：生活展 りっくる館  
 主催：りっくる祭】【11月 社会福祉協議会主催：福祉祭り】等、対外イベントにも積極的に参加していく  
 方向です。その都度参加協力と呼びかけますので、ぜひご協力ください。

以上の事業活動を進めるため、女性会員の会では活動推進委員会を設け、企画・実践に当たります。今年  
 度の委員は以下の通りです。

### 平成30年度女性会員活動活性化委員会委員

(Ⓔは外部委員 ○は班長 ・は副班長)

会員氏名	備 考	会員氏名	備 考
土居 園江	委員長	○堀田 周子	生活サポート班
梶田 マリ子	副委員長	・筒井 芳美	生活サポート班
西山 秀樹	常務理事	○赤尾 真由美	オフィスワーク班
Ⓔ木山 聡江	松山市市民参画まちづくり課	・湯地 美晴	オフィスワーク班 (新)
Ⓔ今村 紀美	(株)えひめリビング新聞社	○山本 幸枝	パソコン班
○田邊 幸恵	福祉サービス班	・登尾 幸子	パソコン班 (新)
・赤松 邦恵	福祉サービス班	矢野 光子	事務局 総務課長
○武智 時子	文化伝承班	加藤 綾子	事務局
・藤嶋 カズ子	文化伝承班		

### 活動計画の骨子

- ・会員の学びの場と潜在能力を活かす場として高齢者  
 向け講座 or セミナーの開催
- ・(仮) SC フェスティバルの開催  
 女性会員の会および女性委員会の報告の場とする  
 とともに、会員の作品展示・販売や地域高齢者団体  
 との連携・交流の場の創出を図る。
- ・物販体制の整備および恒常化  
 高齢になっても可能な「生きがい就労」として物  
 販を位置づけ、SC会員ならではの商品作りや自慢  
 の味を恒常的に製造販売するシステムを構築し、生  
 きがいと収入の確保をめざす。

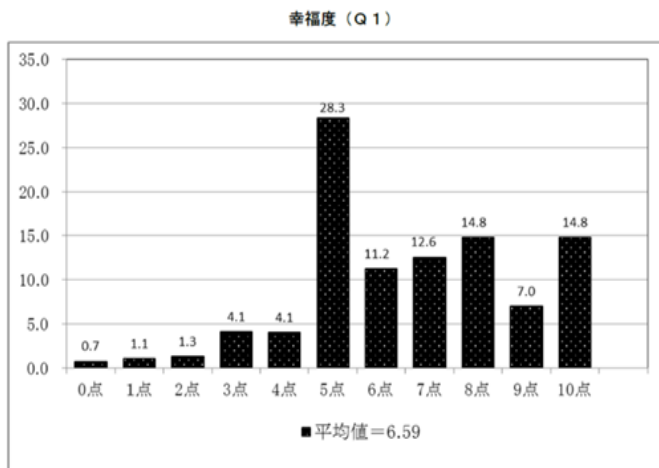
## 満足度高い

### 「おひとりさま」の老後。でも…

団塊世代の人たちが75歳の後期高齢者になる2025年には3人に1人、2055年には2.5人に1人が高齢者になると言われていますが、なかでも増えているのが、ひとり暮らしをする高齢の「おひとりさま」。ここ30年で、3倍の数となりました。女性は男性より平均寿命が7～8歳長く、なんと100歳以上の長寿者の8割以上は女性が占めています。総じて女性は男性より「おひとりさま」になる確率が高い。いまや人生は90年時代に突入。いつかは迎える「おひとりさま」、その現状をちょっと覗いてみると。

## 満足度が高い「おひとりさま」

「おひとりさま」はどのように感じ、暮らしているのか、内閣府の聞き取り調査から紹介すると、聞き取りの結果、「一人暮らしの高齢者の76.3%が『今のまま一人暮らしでよい』と考えている」という調査結果が出ています。「経済的な暮らし向き」について聞いたところ、「心配ない」が7割以上で、全体の4分の3以上の方が経済的に困ってはいないと回答しています。また、幸福度を10点満点で表現してもらくと、平均値では「6.59点」で、不幸と感じているよりも、幸せと感じている人の方が多くなっています。



「現在楽しみにしていること」は、「テレビ・ラジオ」を挙げた人が80%近く、次に「仲間や友人との交際」「新聞・雑誌」「食事・飲食」が40%超、「散歩」「旅行」が30%を超えています。

「今後、誰かと同居したいか」という問いには、「今のまま一人暮らしでよい」が70%以上と多くなっています。現在の生活には、一定の満足感があり、このまま一人暮らしを続けたいと思っている方が主流と言えます。

## 子どもとの関係

困ったことがあったときに、誰に頼るかを見ると、「子(息子、娘)」が1番多く、次に多いのは「あてはまる人はいない」、「兄弟姉妹、親戚」、「頼りたいと思わない」が、ほぼ同数。「介護が必要になった際の主な介護者は」という質問では、「ヘルパーなどの介護サービスの人」が圧倒的に多くて半分以上。「子」が3割、「兄弟姉妹」「友人・知人」などは少数派となっています。

さらに、「認知症になった際に介護を受ける場所」については、軽度の症状の場合は「現在の自宅」が、重度の症状の場合は「特別養護老人ホームなどの介護施設」が多くなっています。「子供を始めとする親族の家」を挙げる人は少数派です。日常生活では、子供に頼る場面があっても、介護が必要な状態になったときは、公的サービスに頼りたいという意思が感じられます。

## 「高齢者の一人暮らし」は暗黒ではない

老後の独居生活というと暗いイメージを抱きがちですが、この調査結果を見る限り、ごく普通に楽しく暮らしている方もたくさんいらっしゃいます。個人差のあることですが、それなりに楽しみも満足も感じていらっしゃるようです。また、子供や親戚、友人知人との交際を楽しんでいる様子も伺えますが、自分が介護を受ける立場になったときにはできるだけ子供には頼らず、公的サービスや公的施設に頼りたいという意向が伺えます。

## 孤独を救う社会参加や開かれたライフスタイル

高齢期の孤独を考えると、家族や同性の友人だけの狭い交流を主として生きてきた日本の高齢世代にとって、できる限りは社会に参加し、あるいは家族以外の友人、知人との交流の中でお互いに助け合い、支え合うという“より開かれたライフスタイル”になじむ機会が少なかったという現実があります。加えて、そうしたライフスタイルを選択しにくい意識が潜在的にあることも事実です。それはもしかしたら、美德とされている「謙虚さ」や「思慮深さ」かもしれません。

残された時間をどう充実して生きるかは、「おひとりさま」から「おたがいさま」をキーワードに精神的・社会的に“より開かれた新たな生き方”をこれから育むことにかかっているのかもしれませんが。これからの仲間づくりに女性会員の会の活動をご活用ください。(D)





## 松山まつり野球拳踊りの練習、終盤へ

6月2日（土）から練習が始まった松山まつり野球拳踊りの練習も25日の10回目の練習で日中の練習を終えることになりました。あとは7/30（月）・8/2（木）・8/6（月）の3日間の午後6時から7時まで、事前練習を行います。場所は松山市総合福祉センター1階大会議室。元気に地域の祭りに参加することは、当センターの重要なアピールにつながります。皆さんのぜひご参加を！！

### 生きがい就労 女性の潜在能力を活かして 総会に彩りを提供

6月13日、松山市総合コミュニティセンターにおいて、当センターの平成30年度総会が開催されました。粛々と進められた総会会場を彩ったのは、手すき和紙工房、リメイク工房の独自事業はじめ、女性会員の会の文化伝承班、暮らしのものづくりプロジェクト、清水町サロンのてまりや折り紙教室のメンバー、地域連携事業のなもしの会の女性たち。それぞれに製作販売している物品を展示し、販売ともども活動のデモンストレーションを行いました。

物販は高齢者の生きがい就労としては最も身近で有効な収入手段であり、それもそれぞれの会員が得意の技をもって共働で製品を作り販売します。女性は地域やグループでそうした技を学んだり、親世代から受け継いだ文化や技を日頃の生活の中で継承しつつ、次の世代に受け継いでいます。

これだけライフスタイルが変化しても、伝統の味や手づくりの文化は若い層にも共感をもって迎えられ、そのまた次の世代への受け渡されていきます。

これは何も女性に限ったことではなく、男性にもその役割が期待されていると感じます。次世代に私たちは何を伝え得るのでしょうか。



くらものプロジェクト    なもしの会:夏かみ販売    清水町サロンのPR

### センターには学びの機会がある 様々な講習会を活用し より充実した仕事人生を！！

高齢となっても仕事を続けたいという思いは元気な証拠。とはいってもライフスタイルや仕事環境の変化で仕事に向かうのには不安もあります。実際刻々と変わる仕事の現場に対応出来る人材の要請は深刻で、高齢者自身もうかうかとは出来ないのが実情。



派遣事業のキャリアアップ研修会風景

そこで、センターでは高齢者の就業に必要な様々な知識及び技能を学ぶ機会を設けています。シルバーと言えば剪定・除草の仕事が有名で、ニーズも多い。シルバーならではの丁寧で比較的安い料金が人気で、高齢期の仕事としては収入の面でも満足度が高い。それだけに技術や知識の習得が肝心と、定期的な研修会を開き、研鑽している。ほかにも家事援助や子育てなども繰り返し研修会が開催され、スキルアップにつなげている。こうした講習や研修会を無料で受講できることは会員の特権。実施予定を把握して受講をおすすめしたい。

また、労働者派遣事業では、派遣スタッフ研修会やキャリアアップ講座を年間14～15回開催し、高齢者のレベル低下や集中力低下防止にカンフル剤を注入しています。

生涯現役というけれど、高齢とともに機能が減衰するのが当然のことわり。一方で、鍛え続ければ減衰量低下は緩慢となり、現状維持かゆっくりと下降するというジェロントロジー的指摘もあります。さて、センター会員として特権を無駄にせず、学べる機会を有効に活用し、仕事人生をより充実させてみてはいかが。

### 編集後記

7月豪雨の爪痕が県内に深く残っています。お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表します。また、被災された方々に心からお見舞い申します。山も河も、海も地底もすでに何億万年もの時を経ており、経年変化するのは当然、ましてこのところの地球の温暖化現象は思わぬ異変を生み出します。それでもかたくなに「何事もない平穏な日々」を願い甘んじている自分を深く反省する機会となりました。(D)

発行 公益社団法人  
松山市シルバー人材センター  
女性会員活動活性化委員会  
〒790-0808  
松山市若草町 8-3  
ハーモニープラザ2F  
☎089-933-7373